

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	23人

1. 使用状況

寄贈物品名	ジャングルジム
使用学年及び人数	幼稚部年少2人、年中2人、小学部2年5人、4年1人、5年4人、6年1人
使用頻度	幼稚部あそび、昼休み、小学部自立活動等 毎日
使用状況	<p>中庭に設置したため、常時幼児児童が使用することができる状態である。幼稚部では、天気の良い日や気候の良い時期の中庭あそびで幼児たちが自由に使っている。友達が一番上まで上るのを見て、真似して上まで登ったり、教師と追いかけてこをするように横移動したりしながら、楽しんで使用している。</p> <p>小学部では、自立活動の時間に活用し、身体の動きを習得することを目指して教師と一緒に上り下りしながら手足をスムーズに動かす練習をしている。昼休みには幼小小学部の幼児児童たちが自由に遊ぶ遊具として活用している。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>ジャングルジムで遊んだ経験のない幼児児童もおり、はじめは使うことに消極的だった子もいたが、常設したことで徐々に慣れていき、抵抗なく使えるようになってきている。上に上ってから下りられなくなってしまう児童も見られたが、手足の動かし方を覚えたり身体感覚をつかんだりしていくことでスムーズに上り下りできるようになっている。</p> <p>教師や友達に誘われて、苦手でも挑戦してみようとする幼児児童もおり、新しい遊具によって気持ちや身体の使い方に成長が見られている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>中庭に常設したため、常時幼児児童が使用する場所でもあり年間活用していく。</p> <p>ジャングルジムの先端のゴムが外れて落下していることがあり、危険防止のためにも修繕していく必要がある。</p> <p>安全面には十分配慮しながら使用していきたい。</p>
その他希望や所感など	幼児児童の成長や心身の発達のために有効に活用している。

2. 活用の様子



幼稚部の幼児と教員があそんでいる場面。
一番上まで上って空を見上げたり、嬉しそうに微笑んだりしていました。
ジャングルジム内部で友達同士で移動しながら遊び、友達とのやりとりや
手足を使って上下前後左右に移動を楽しんでいます。



幼稚部の幼児と小学部の児童が
一緒に活動している場面。
幼児が児童を呼んで、誘われる
ように上まで上りました。ジャ
ングルジムから下りる時には怖がっ
ていましたが、教師の言葉掛けや
支援を受けてゆっくり下りていく
ことができました。

ジャングルジム完成時に
幼小学部みんなで記念撮影。
中庭に新しくできた遊具にみ
んな満面の笑顔。
設置工事の間も興味津々で様
子を見ていたので待ちに待っ
た完成でした。
このあと、早速全員で順番に
遊び、子どもたちは歓声をあ
げて楽しみました。

